

社会・環境部会 2013年 春の全体会議 議事次第

日時 : 平成25年3月27日(水) 12時15分 ~  
場所 : 近畿大学東大阪キャンパス E会場

議題

1. 部会長挨拶
2. 平成24年度収支概要及び25年度予算について
3. 平成25年度部会運営体制(案)
4. 平成24年度活動の概要報告と次年度活動についての意見交換
5. 平成24年度部会表彰について

配布資料

- ① 平成24年度収支概要及び25年度予算申請書
- ② 平成25年度部会運営委員体制(案)
- ③ 平成24年度活動概要及び企画小委員会各報告書
- ④ 平成24年度部会賞表彰について
- ⑤ (参考) 第3回運営小委員会議事録



※予算は、各月に入力し、円単位にて千円表示とする。

単位:円

「1」本部予算【323】	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
(1)収入															
本部予算配分 収入	14531	171,000												171,000	
その他 収入(寄付金賛助金等)	14751													0	寄付金 円、賛助金 円他
<b>収入 計</b>		171,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171,000	
(2)支出															
臨時雇賃金 支出	15021													0	
会議費(会場) 支出	15041													0	会議室(会場)使用料 円、懇親会費用 円、その他等
旅費交通費 支出	15051						80,000						80,000	160,000	運営委員会参加委員の旅費 16万円 福島特別プロジェクト分は独自事業へ
通信運搬費 支出	15061						2,000						8,000	10,000	宅急便代 1万円
消耗品費 支出	15091													0	
一般外注経費 支出	15111													0	印刷、コピー代 円、テキスト作成費 円
委託費 支出	15131													0	受託研究委託費 円
諸謝金 支出	15161						1,000						0	1,000	独自事業へ
その他 支出														0	負担金 円、
<b>支出 計</b>		0	0	0	0	0	83,000	0	0	0	0	0	88,000	171,000	
(3)当(月)年度収支戻(1-2)		171,000	0	0	0	0	-83,000	0	0	0	0	0	-88,000	0	

※本部から配分された予算消化の未達が出て、翌年度に繰り越すことは出来ない

0

「2」独自事業予算【325】	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
(4)独自予算収入															
会費 収入														0	
参加費 収入	14201													0	講演会等参加費 円、情報交換会(懇親会) 円、宿泊・昼食代等
テキスト(論文集)売上 収入	14361													0	
受託料 収入	14641													0	
その他 収入(寄付金賛助金等)	14751													0	寄付金 円、賛助金 円等
繰越金取崩 収入							319,000						420,000	739,000	
<b>収入 計</b>		0	0	0	0	0	319,000	0	0	0	0	0	420,000	739,000	
(5)独自予算支出															
臨時雇賃金 支出	15021													0	
会議費(会場) 支出	15041													0	会議室(会場)使用料 円、懇親会費用 円、その他等
旅費交通費 支出	15051						300,000						300,000	600,000	福島特別プロジェクト参加委員の旅費 30万円、福島コアGr参加委員の旅費 30万円、
通信運搬費 支出	15061													0	切手、宅急便、プロバイダー料金 円
消耗品費 支出	15091													0	
一般外注経費 支出	15111													0	印刷、コピー代 円、テキスト作成費 円
委託費 支出	15131													0	
諸謝金 支出	15161						19,000						20,000	39,000	企画セッションの講師謝礼 4万円
その他 支出													100,000	100,000	部会表彰の記念品代 10万円
本部回収額 支出	15301													0	
<b>支出 計</b>		0	0	0	0	0	319,000	0	0	0	0	0	420,000	739,000	
(6)当(月)年度収支戻((4)-(5))		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(7)当(月)年度収支戻(繰越金取崩除く)		0	0	0	0	0	-319,000	0	0	0	0	0	-420,000	-739,000	
(8)本部 繰入金(7)×20%		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(9)当(月)年度収支戻((7)-(8))		0	0	0	0	0	-319,000	0	0	0	0	0	-420,000	-739,000	

「3」繰越金	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
(1)前年度繰越金		5,920,222												5,920,222	
(2)当年度繰越金取崩額		0	0	0	0	0	319,000	0	0	0	0	0	420,000	739,000	
(3)当年度繰越額 (9)		0	0	0	0	0	-319,000	0	0	0	0	0	-420,000	-739,000	
(4)次年度繰越金														5,181,222	

## 社会・環境部会の H25 年度予算申請において繰越金を使用する理由

社会・環境部会では、社会的側面について学問的に研究し、成果についての情報交換や普及を図っていくことを目標としているが、その性格上、有料のセミナーを開催したり、販売会等を開催して、部会の収入を得ることは難しい。

したがって、H25 年度で予定している以下の支出に関して、社会・環境部会の繰越金を使用して予算の申請を行うこととする。

### (1) 福島特別プロジェクト参加委員旅費 300,000 円

H24 年度から学会が総力を挙げて取り組んでいる「福島特別プロジェクト」に対して、社会・環境部会としても最重要の課題として取り組んでいる。H25 年度においても、引き続きプロジェクトが継続することを想定して、このプロジェクトの活動に参加する委員、部会員の交通費を予算計上するものである。

### (2) 福島コア Gr. 参加委員旅費 300,000 円

社会・環境部会の活動として、H24 年度から、「福島事故に関する社会的要因分析コアグループ（略称：福島コア Gr.）」を行っている。この活動は、福島事故が発生した要因のうち、社会的要因について注目し、さまざまな角度から分析を行い、専門家・学会としての反省と総括を行うとともに、分析を踏まえた提言を行うものである。H25 年度も活動を継続する予定であり、この活動に参加する委員の旅費について予算計上するものである。

### (3) 企画セッションの講師謝礼 40,000 円

社会・環境部会では、毎年度、秋の大会・春の年会の部会企画セッションにおいて、福島事故やその他の社会との関連が深いテーマを取り上げて、講演やディスカッションを実施している。学会員以外の方へ講演を依頼することがあり、講師への謝礼を予算計上するものである。

### (4) 部会表彰の記念品代 100,000 円

社会・環境部会では、原子力の社会的側面あるいは原子力と社会との接点の分野において、顕著な業績があった個人や、優秀な活動等を行った個人やグループを表彰する「社会・環境部会部会賞表彰」制度を設けている。表彰は、毎年度、春の年会時に行っており、賞状や記念品代を予算計上するものである。

### (5) 運営委員会参加委員費 160,000 円

社会・環境部会では、上記(1)～(4)の活動を円滑に実施していくために、運営委員による運営委員会を定期的で開催しており、所属から旅費が支給されない委員の旅費を予算計上するものである。

### (6) 宅急便代等 10,000 円

上記(1)～(4)の活動を行う上で必要となる宅急便等の予算を計上するものである。

社会・環境部会 運営小委員会体制（案）

平成24年度 運営委員

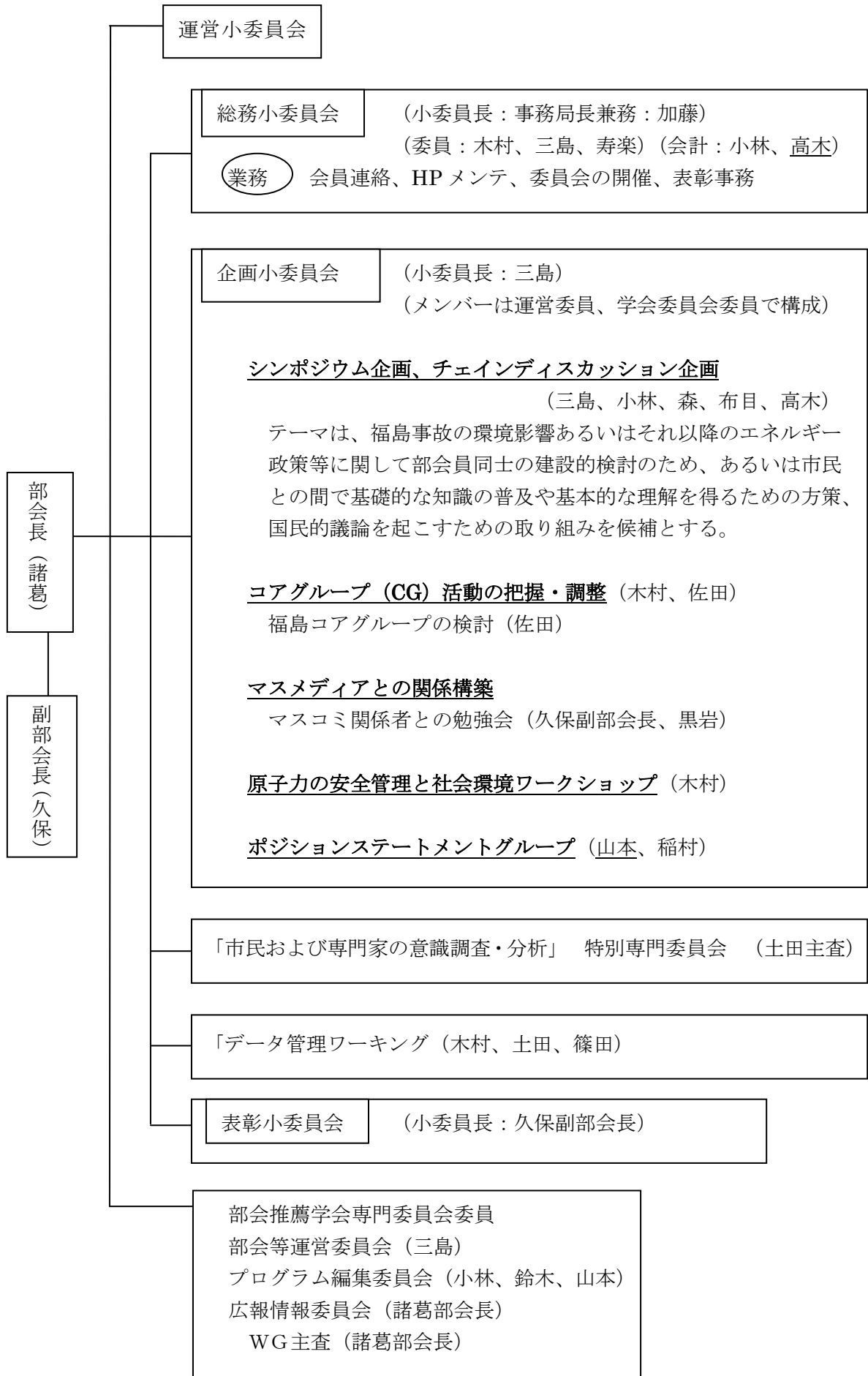
	名前	所属
部会長	諸葛 宗男	東京大学
副部会長	久保 稔	日本原子力研究開発機構
企画小委員長	三島 毅	日本原燃
運営委員	森田 浩司	電気事業連合会
	森 健一郎	原子力安全システム研究所
	佐田 務	日本原子力研究開発機構
	寿楽 浩太	東京電機大学
	森崎 利恵子	エネルギー広報企画舎
	新谷 聖法	
	黒岩 温子	三菱重工
	河合 潤	三菱総合研究所
	布目 礼子	原子力発電環境整備機構
	稲村 智昌	電力中央研究所
	小林 容子	原子力規制庁
	木村 浩	東京大学
	蛭沢 重信	エネルギー総合工学研究所
事務局長	加藤 豊一	日本原電

平成25年度 運営委員名簿

H25. 3. 27

名前	所属	任期	
諸葛 宗男	東京大学	平成26年3月末	
久保 稔	つくば科学万博記念財団	平成27年3月末	再
三島 毅	大林組	平成26年3月末	
森田 浩司	電気事業連合会	平成26年3月末	
森 健一郎	原子力安全システム研究所	平成26年3月末	
佐田 務	日本原子力研究開発機構	平成26年3月末	
寿楽 浩太	東京電機大学	平成26年3月末	
森崎 利恵子	エネルギー広報企画舎	平成26年3月末	
黒岩 温子	三菱重工	平成26年3月末	
河合 潤	三菱総合研究所	平成26年3月末	
布目 礼子	原子力発電環境整備機構	平成27年3月末	再
稲村 智昌	電力中央研究所	平成27年3月末	再
小林 容子	原子力規制庁	平成27年3月末	再
木村 浩	パブリック・アウトリーチ	平成27年3月末	再
山本 隆一	日本原子力研究開発機構	平成27年3月末	新
加藤 豊一	日本原電	平成27年3月末	再

## H25年度 社会・環境部会運営体制（案）



( 社会・環境 ) 部会 平成 24 年度活動報告書

1. 部会員・連絡会員数 ( 278 ) 名 (平成 25 年 3 月 31 日現在)
2. 当該年度予算 ( 809,000 ) 円
3. 当該年度および新年度運営体制  
※H24 年度運営委員リストは「別紙 1」、H25 年度運営委員リストは「別紙 2」のとおり  
(次期改選予定時期：平成 25 年 3 月 (1 期 2 年))
4. 大会／年会における部会・連絡会企画等の開催状況
  - (1) 秋の大会  
セッション名「福島事故に関する世論と学会員の意識のギャップをどう埋めていくか」  
—マスメディア報道と原子力世論に関する調査活動の報告— (開催時間：90 分)  
開催日： 9 月 20 日 (木) 会場名：A 会場  
■主催 / □共催 ( 部会・連絡会・専門委員会が主催)  
参加者数： 100 名
  - (2) 春の年会  
セッション名「福島原発事故の社会的側面の分析」  
—福島事故に関する社会的要因分析コアグループからの報告— (開催時間：90 分)  
開催日： 3 月 27 日 (水) 会場名：L 会場  
■主催 / □共催 ( 部会・連絡会・専門委員会が主催)  
参加者数： 名
5. 国内会議／国際会議／セミナー／シンポジウム(勉強会等)の開催状況
  - (1) 企画名「『原子力の安全管理と社会環境』ワークショップ」第 12 回  
—エネルギー問題に関する国民的議論—  
開催日： 平成 24 年 10 月 13 日 (水) 会場：武田先端知ホール  
□主催 / ■共催(ヒューマンマシンシステム研究部会・日本品質管理学会とで主催)  
参加者数： 60 名
  - (2) 企画名「『原子力の安全管理と社会環境』ワークショップ」第 13 回  
—レジリエントな組織はは QMS で作れるのか—  
開催日： 平成 25 年 3 月 16 日 (月) 会場：武田先端知ホール  
□主催 / ■共催(ヒューマンマシンシステム研究部会・日本品質管理学会とで主催)  
参加者数： 名
6. 成果の出版物掲載 (部会・連絡会活動としての特集記事、特別寄稿、出版物など)
  - (1) 本会学会誌「アトモス」掲載  
2011 年 12 月号 p. 2 ～ 3  
タイトル「今こそ深層防護の安全哲学の深耕を」  
著者：諸葛宗男
  - (2) 本会学会誌「アトモス」掲載  
2012 年 7 月号 p. 10 ～ 14  
タイトル「推進派と反対派の協働的分業を—『ポスト福島事故』をめぐる社会的課題」  
著者：佐田務
  - (3) 本会学会誌「アトモス」掲載  
2013 年 4 月号 p. ～

タイトル「本当に人々は『ゼロリスク』を求めているのかー シベリアアクシデント対策とゼロリスク志向」

著者：堀越秀彦

上記は、いずれも、福島事故に関する社会的要因分析コアグループ研究活動の議論の中あるいはその影響を受けて執筆されたものである。

(4) 本会学会誌「アトモス」掲載

2013年9月号 p. 42 ~ 46

タイトル「福島原発事故以降、首都圏住民と原子力学会員の原子力に対するギャップはどうなったのか？」

著者：木村浩

上記は、マスメディア報道と原子力世論に関わるデータベース構築と拡充特別専門委員会の活動の中で執筆されたものである。

7. その他の特記すべき活動（部会賞授与等を含む）

(1) マスコミ関係者への原子力セミナー

①第1回（通算13回）「ヒッグス粒子について」9月28日

講師：高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授 徳宿 克夫 先生

(2) 特別専門委員会「原子カムの境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの施行」

①第1回業務推進全体会合 平成24年11月16日（金）（業務の概要説明、各グループ（社会調査、フォーラム検討）進捗報告）

②第2回業務推進全体会合 平成24年12月7日（金）（社会調査票の内容の議論）

③第3回業務推進全体会合 平成25年2月20日（水）（社会調査結果の報告と議論）

④第4回業務推進全体会合 平成25年3月22日（金）（今年度業務の報告と議論）

(3) 福島事故に関する社会的要因分析コアグループ研究活動（学会事故調査委員会の社会的側面の調査部門を兼務）

① 第1回会議 平成24年6月22日

② 第2回会議 平成24年10月5日

③ 第3回会議 平成24年11月27日

④ 第4回会議 平成25年2月13日

<これまでの主な論点>

- ・ 技術力の低下と人材の希薄化
- ・ 原子力安全の専門知の統合に問題、社会アクターとのコミュニケーションの不在
- ・ 今回の事故対応における情報発信の問題
- ・ 規制と検査体制の問題
- ・ 津波対策について
- ・ 安全研究の体制や予算の推移について
- ・ 深層防護の考え方や政策への反映について
- ・ 報告書の内容と執筆分担について

(4) 部会表彰

・平成24年度部会表彰として、下記の方々を表彰した。

① 業績賞：((株)テムス研究所)北村正晴（原子力安全論理の再構築を目指す学術的・社会的な取り組みを精力的に行い、社会からの信頼回復に向けた道筋を示した）

② 優秀発表賞：(京都大学) 亀田弘行、(東京大学) 高田毅士、(原子力安全基盤機構) 蛭沢勝三、(日本大学) 中村 晋（リスク論に立脚したトータルプロセスの視野から



原子力安全を論ずることの重要性を提起した優れた分析と提言)

- ③ 優秀発表賞：(日本原子力研究開発機構) 山下祐司、(東京大学) 田中 知(高レベル廃棄物処分場問題に関して米国アカデミーが果たしてきた役割を詳らかにし、我が国の学術会議の役割考察に大きく貢献)
- ④ 優秀活動賞：日本原子力学会 標準委員会原子力安全検討会 原子力安全分科会 (大阪大学) 山口 彰、(大阪大学) 高田 孝、(名古屋大学) 山本章夫、(電力中央研究所) 吉田智朗 (本学会における原子力安全基本原則策定に向けた活動を主導し、社会からの信頼回復に向けた取り組みに大きく貢献)
- ⑤ 奨励賞：静岡県立静岡北高等学校 (中村 琢(指導)、池田俊乃輔、斎藤龍一) (原子力と地域社会の接点をつなぐ理解と普及活動に大きく貢献)

以上

2013年春の年会（3/26-28）企画セッション提案書

申請者所属 社会・環境部会 氏名 三島 毅

セッションの種類		(該当するセッションに○印をつけるか、□で囲んでください)	
特別講演		招待講演	
委員会セッション (委員会名: )			
部会・連絡会セッション (部会・連絡会名: 社会・環境部会 )			
総合講演・報告 (専門委員会名: )			
※共催組織がある場合、その組織名: ( )			
所要時間	90分	※原則として、特別講演を除く企画セッションは 全て午後13:00-14:30にプログラム編成します。	
* 所要時間の目安: 特別講演/60~120分 招待講演/総合講演・報告/部会・連絡会セッション/常置委員会セッション 90分 (目安: 講演者1人30分×3件)			
セッション タイトル	福島原発事故の社会的側面の分析		
(座長所属) 座長氏名	( 東工大 ) 大場 恭子		
講演タイトル	(講演者所属) 講演者氏名		
(1) 福島原発事故の社会的側面の分析	( JAEA ) 佐田 務		
(2)	( )		
(3)	( )		
(4)	( )		
	( )		

※本提案書がプログラム掲載原稿となります。正確にご記入願います。

今後の連絡担当窓口 (セッションに関する諸連絡を行っていただける方を記入してください)			
氏 名		所 属	
三島毅		(株) 大林組	
電 話	5769-1085	F A X	5769-1942
Eメール	mishima.tsuyoshi@obayashi.co.jp		

<p>一般公開について（○印または口で囲む）</p> <p>※「一般公開」とは、参加料を支払わない一般の聴講者にも公開するセッションを指します。希望するセッションは、一般聴講者にもわかりやすい内容としてください。</p>	<p>希望する</p>
<p>上記で「希望する」場合は、その理由</p>	
<p>討論に一般市民が加わる方がテーマの趣旨に沿う。また一般市民にとっても関心が高いテーマである。</p>	
<p>備考欄（会場規模（○名収容の部屋）などその他ご要望等）</p> <p>ご希望にそえない場合もございますのであらかじめご了承ください。</p>	
<p>なるべく大きな会場</p> <p>福島関連の部会セッションをまとめるのであれば、それに参加希望</p>	
<p>セッションの具体的な目的、内容</p> <p>できるだけ詳細にご記入ください。部会等運営委員会で審議する際の資料となります。</p>	
<p>社会環境部会の下に設けられた「福島事故に関する社会的要因分析コアグループ（福島コア G）」は、福島第一原子力発電所事故の遠因と影響に関する社会的側面についての分析と検討を進め、2011年6月に発足し、2012年10月までに12回の会合を重ねてきた。</p>	
<p>この福島コアGが検討あるいは注目している論点は、下記の通りで、内容の骨子について紹介し、フロアとの討論により論点の整理、共有、展開を試みる。</p>	
<p>はじめに</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本報告書のスコープとパースペクティブ</li> </ul>	
<p>第1章 全体を俯瞰、統括する知見の欠如</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1 津波対策（事例1）</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 過酷事故対策を含む安全研究体制の推移（事例2）</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3 小括</li> </ol>	
<p>第2章 露呈した危機管理体制の不備</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 1 クライシスマネジメントとは何か</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 2 露呈した危機管理体制の不備</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 3 小括及び提言</li> </ol>	
<p>第3章 規制体制</p>	
<p>我が国における規制体制の経緯、事故前の体制とそこでの課題、事故後の新体制と今も残る課題、提言</p>	
<p>第4章 原子力コミュニティ</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 1 原子力コミュニティの構造と文化規範、組織成員の意識の分析</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 2 原子力をめぐる主要なステークホルダー間のコンフリクト</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 3 専門家、学会としての総括</li> </ol>	
<p>第5章 提言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全論理、安全文化の構築</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制について</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制体制について</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力をめぐる主要なステークホルダー間のコンフリクトの解決へ向けて</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興に向けて</li> </ul>	

## 第12回「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップ

～エネルギー問題に関する「国民的議論」のあり方を探る～

主催：日本原子力学会社会・環境部会／ヒューマンマシンシステム研究部会／日本品質管理学会

### 【趣旨】

本ワークショップは、平成19年3月8日に第1回ワークショップを開催して以来、原子力の安全管理と社会環境に関して、ヒューマンファクター、品質マネジメント、社会技術という3つの学問分野の視点から、その現状と課題、今後の方向性などを議論してきた。その中では、地域住民・国民とのコミュニケーションのあり方などについても取り上げている。しかしながら、昨年の東日本大震災に伴う福島第一原発の災害により、原子力施設を取り巻く状況は大きく変わり、今や、国のエネルギー政策・原子力政策を根本から見直すことが必要となっている。

こうした状況を踏まえ、今回は、原子力を含めた今後の日本のエネルギー問題について、地域住民、行政、事業者をはじめ社会全体としての「国民的議論」のあり方について、それぞれの立場から話題提供を受けて議論する。これにより、「エネルギー問題をどうするか」そのものではなく、その「国民的議論」をどのように展開したらよいか、今後のあり方を考えたい。

### 【開催日時・場所】

日時：10月13日（土） 13:00～17:00

場所：東京大学浅野キャンパス武田先端知ホール

参加費：無料

申込み：10月10日（水）までに [ethics@nuclear.jp](mailto:ethics@nuclear.jp) へ「お名前・ご所属」をお知らせください。

### 【内容・登壇者】（敬称略）

13:00 開会あいさつ 木村 浩（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会）

13:05 話題提供

（1）事業者の立場から（25分）

森田浩司（電気事業連合会 広報部 部長）

：電気事業者として、どのような活動をしているか

（2）住民の立場から（25分）

横島英俊（守谷あんしんお散歩プロジェクト 〈もりあん〉）

：住民の立場に立った議論、活動の内容等を紹介

（3）実践者の立場から（25分）

土屋智子（東京大学政策ビジョン研究センター）

：議論展開のためのコミュニケーション実践の場の在り方

（4）学術的立場から（25分）

神里達博（大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 特任准教授）

：国民的議論には、何が重要か、どうしたらよいか

15:00 パネルディスカッション

コーディネータ： 木村 浩（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会）

首藤由紀（社会安全研究所）

パネリスト： 上記4人の話題提供者

17:00 閉会あいさつ 諸葛宗男（東京大学、日本原子力学会社会・環境部会長）

### 【連絡先】

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 木村 浩

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 TEL：03-5841-2959 FAX：03-5841-8627

「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップ

1. 第 12 回「エネルギー問題に関する国民的議論」
  - (ア) 平成 24 年 10 月 13 日@武田ホール
  - (イ) 第 12 回は、福島第一原子力発電所の災害を踏まえ、原子力を含めた今後の日本のエネルギー問題について、地域住民、行政、事業者をはじめ社会全体としての「国民的議論」をどのように展開していったらよいか、それぞれの立場から問題提起して、活発に議論した。60 名程度の参加者があり、会場からも意見が述べられ、有意義な WS であった。
  
2. 第 13 回「レジリエントな組織は QMS で作れるのか」
  - (ア) 平成 25 年 3 月 16 日@武田ホール
  - (イ) 第 13 回は、「レジリエントな組織は QMS で作れるのか」に論点を絞って議論する。2003 年に原子炉等規制法に基づく実用炉規則が改正・施行され、原子力安全のための品質保証が要求されるようになってから既に 10 年、事業者においては JEAC 4111 に基づく QMS（品質マネジメントシステム）が構築・運用されている。他方、2011 年の東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の事故以来、レジリエントな（回復力のある）組織の重要性が着目されている。そこで、異なった領域の実務家・専門家からの講演・事例発表をいただいた上でパネルディスカッションを行い、QMS の枠組みを活用しながらレジリエントな組織を目指すことは可能なのか、どのような課題があり、その克服に向けてどのような実践が求められるのか、規制機関や社会はどのように向き合うべきのかななどを明らかにした。100 名を越える参加者があり、活発な議論がなされ、有意義な WS となった。
  
3. 第 14 回について
  - (ア) 平成 25 年 9 月～10 月を予定

## 第6回 マスメディアとの交流会 (通算13回)

1. 日時：平成24年9月28日（金） 17：50～19：20

2. 場所：日本原子力学会 会議室

3. 議題：「LHCでHiggsを探す」

講師：高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所

教授 徳宿 克夫 先生

4. 出席者：

(1) マスコミ関係

毎日新聞、時事通信社、日刊工業新聞社、原産新聞 4社 計5名

(2) 事務局 原子力学会、学会フェロー関係者、社会・環境部会関係者 計7名

5. 配布資料：LHCでHiggsを探す

6. 説明内容

(1) 原子力学会の社会・環境部会長 諸葛宗男氏から勉強会開催の経緯及び開会挨拶があった。

(2) 徳宿克夫講師から配布資料を元に、以下の説明があった。

### ①標準理論

- ・運動方程式（質量×加速度＝力）から、どういう力がどうして出てくるかを知りたいという要求から、力はどう伝わるのかを考え、力を媒介する粒子（ゲージ粒子）がいると考えた。
- ・素粒子は、大きく2つのタイプに分けられる。物質を構成するフェルミ粒子と、物質同士の間で働く力を伝えるゲージ粒子である。
- ・宇宙には物理学的に4つの力が働いていると考えられている。重力、電磁力である。それと弱い力と強い力で、これは原子核のレベルで働く力である。ベータ崩壊を起こし、原子の種類を変えるのが弱い力である。一方、原子核の中に陽子や中性子を

閉じ込める力が強い力である。

- ・物質は3世代6種類のクォークと6種類のレプトンからできていて、それぞれ3世代ある。

②どうやってヒッグス粒子を見つけるのか

- ・ATLAS検出器はCERN(Conseil Europe en pour la Recherche Nucle aire)のLHC(大型ハドロン衝突型加速器)の実験装置の一つである。
- ・日本は計138.5億円の加速器建設協力を行っており、高エネルギー加速器研究機構は、LHC衝突点用の超伝導四極磁石を開発製造した。
- ・2012年7月LHCアトラス実験日本グループはヒッグス粒子と思われる新粒子を発見した。

### (3) 質疑応答

- ・ヒッグス粒子(効果)の発見に至る素粒子物理学の過程で、グラウト・アングレール・ヒッグス機構と呼ばれているが、ノーベル賞受賞となると誰が受賞すると予想されるか
- ・京都における冬のカンファレンスでは、どこまでの成果が報告されるのか
- ・ヒッグス粒子を特定するための鍵となるのは何か
- ・日本のJ-PARCでは、同様の実験成果は期待できないのか

など、素粒子物理学の本質に迫る質疑と、まもなく発表されるであろうノーベル賞の受賞候補に関する質問まで、メディアの方との多数の質疑があった。

(4) 原子力学会フェロー齋藤伸三氏から閉会の挨拶があった。

以上

マスメディアとの勉強会の実績

2012年8月31日改訂

2012年8月26日

日本原子力学会

社会・環境部会

久保

第1回 平成18年8月22日 於東大工学部（浅野キャンパス）

テーマ：わが国における原子力施設の検査制度

講師：班目 春樹氏 東大大学院教授

第2回 平成19年8月28日 於原子力学会事務所

テーマ：最近の米国の原子力の動向

講師：窪田 秀雄氏 日本テレビ

第3回 平成20年2月21日 於原子力学会事務所

テーマ：ウラン資源を巡る世界の情勢と電力業界の対応

講師：鈴木 一弘氏 東京電力（株）原子燃料サイクル部長

第4回 平成20年12月9日 於原子力学会事務所

テーマ：J-PARCの現状と今後の計画

講師：池田 裕二氏 J-PARC 副センター長

第5回 平成21年8月11日 於原子力学会事務所

テーマ：プルサーマル計画について

講師：岩田 修一氏 東大大学院教授

第6回 平成21年12月4日 於原子力学会事務所

テーマ：原子力発電施設の廃止措置

講師：石樽 顕吉氏 （社）日本アイソトープ協会 常務理事



第7回 平成22年2月24日 於原子力学会事務所

テーマ：米国の原子力動向

講師：吉川 隆志氏 JAEA 国際部次長

第8回 平成22年9月22日 於原子力学会事務所

テーマ：高速炉、新型炉の最近の動向

講師：松井 一秋氏 エネルギー総合工学研究所理事

(第8回以降 メディアとフェローとの交流会と合同開催)

第9回 平成22年12月16日 於原子力学会事務所

テーマ：日本の原子力技術と国際展開

講師：石塚 昶雄氏 日本原子力産業協会常務理事

第10回 平成23年8月29日於ミーティングプラザ新橋会議室（堤ビル9階）

テーマ：東電福島第一原子力発電所の事故の教訓と原子力安全

講師：岡本 孝司氏 東大大学院工学系原子力専攻科教授

第11回 平成23年12月20日 於原子力学会事務所

テーマ：東電福島第一原子力発電所の敷地外クリーンアップについて

講師：井上 正氏 原子力学会「原子炉安全」特別専門委員会クリーンアップ分科会主査、(財)電力中央研究所顧問

第12回 平成24年2月23日 於原子力学会事務所

テーマ：低線量の放射線影響とICRPの防護体系

講師：佐々木 康人氏 日本アイソトープ協会常任理事

第13回 平成24年9月28日 於原子力学会事務所

テーマ：ヒッグス粒子について（調整中）

講師：徳宿 克夫 先生

高エネルギー加速器研究機構  
素粒子原子核研究所 教授

データ管理ワーキンググループ

「市民および専門家の意識調査・分析」特別専門委員会

3. データ管理ワーキンググループ

(ア) 2006 年度～2011 年度の調査結果をホームページに公開。部会ホームページからリンクを張っている。(リンク先変更)

<http://www.ponpo.jp/DMWG/index.html>

(イ) データ使用の申し込み 2 件。(公開レベル 1 : 1 件、公開レベル 2 : 1 件)

4. 「市民および専門家の意識調査・分析」特別専門委員会

(ア) 平成 24 年度原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブに「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」が採択され、その一部業務のために設置し、実施した。

① 社会調査の設計・・・終了

原子力学会に特別専門委員会を設置し、エネルギーや原子力に関する意識を測定する質問項目を検討した。また、フォーラム参加者を決定するための市民および専門家への調査票および依頼書を作成した。

② 一般市民および専門家への社会調査・分析・・・終了：首都圏住民 500 名、学会員 559 名 (回収率 39.9%)。

③ 調査結果の公開・・・終了

作成した調査票を用いて、市民の代表として首都圏住民 (回収数 500 名)、および、専門家の代表として原子力学会員 (回収数 500 名規模) に対して、アンケート調査を実施し、結果を分析した。また、公正のために、アンケート調査結果の概要はホームページで公開した。

<http://www.ponpo.jp/forum/gakkai.html>

(イ) 平成 25 年度原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブも継続予定。本委員会も継続が承認された。

以上

### 【活動実績】

#### 1. 同コア G の目的

東京電力福島第一原子力発電所事故に関する社会的側面についての分析・検討及び知見の提言、それをふまえた実践活動などを行うことにより、原子力安全の向上に資することをめざす。

#### 2. 経緯

原子力学会社会環境部会などに所属する有志は2011年6月に、福島事故に関する社会的側面について検討を行う福島勉強会を発足させ、同12月に社会環境部会の「福島事故に関する社会的要因分析コアグループ」(福島コア G)へと改組した。また2012年9月には、原子力学会事故調査委員会における社会環境部会の中の委員会へと位置づけを拡大した。

#### 3. メンバー (実働者のみ記載)

出澤正人、大場恭子、河合 潤、川岸礼佳、川本義海、北村正晴、木下雅仁、久保 稔、桑江良明、小林容子、佐田 務、澤田 隆、篠田佳彦、土田昭司、布目礼子、堀越秀彦、三谷信次、諸葛宗男、横手光洋 ほか

#### 4. 開催実績 (2012年度の会合概要は p2-5 に記載)

< 2011年度 >

第1回～第3回会合を開催

< 2012年度 >

第4回 2012年6月22日

第5回 2012年10月5日

第6回 2012年11月27日

第7回 2013年2月13日

今年度の会合では、福島事故に関する社会的要因分析コアグループの報告案骨子と学会事故調からの委託案件(学会幹部アンケート)などについて検討した。

#### 5. アウトプット

- ・2012年3月の春の学会で、本コア G での検討の途中経過を公表
- ・2013年3月の春の学会で、本コア G での検討の中間報告を公表予定
- ・本コア G での議論をふまえて北村、諸葛、土田、佐田、堀越、桑江各委員が原子力学会誌にその成果を公表

### 【今後の予定】

2013年度の予定は下記の通り。

- ・年4回程度開催予定
- ・福島事故に関する社会的要因分析コアグループの報告書作成と公表(次ページ暫定目次)
- ・上記の一部は原子力学会事故調査委員会報告書に反映
- ・本コア G は2013年度をもって解散。

### 【福島事故に関する社会的要因分析コアグループの報告案骨子】

はじめに

- ・本報告書のスコープとパースペクティブ、本報告書で使用する言葉の定義

第1章 全体を俯瞰、統括する「知」の欠如

- 1.1 津波対策(事例1)(堀越秀彦)

1. 2 安全研究（事例2）（河合 潤）
1. 3 小括（コアG）
  - ・小論「福島事故を誘発した電力の体質」（横手光洋）
  - ・小論「本当に人々は「ゼロリスク」を求めているのかーシベリアアクシデント対策とゼロリスク志向」（堀越）

## 第2章 露呈した危機管理体制の不備（土田昭司）

2. 1 クライシスマネジメント、クライシス・コミュニケーションとは何か（土田）
    2. 1. 1 クライシス・コミュニケーションの定義
    2. 1. 2 クライシス・コミュニケーションにおける **Public**
    2. 1. 3 クライシス・コミュニケーションの必要性
    2. 1. 4 クライシス・コミュニケーションの内容
    2. 1. 5 クライシス・コミュニケーションにおいて流通すべき情報：
      - 安全の多義性と「想定外」の観点から
  2. 2 露呈した危機管理体制の不備ークライシス・コミュニケーションを中心に（佐田務）
    2. 2. 1 エリートパニック
    2. 2. 2 対応体制の不備による失敗と恣意的な失敗
    2. 2. 3 危機管理体制の不備が露呈ー背景要因
  2. 3 小括と提言（土田）
    - ・小論「危機管理とメディア対応ー米国と日本の違いについて」久保稔
- <参考>学会による情報発信活動
1. HP を通じた活動（澤田+池本）
  2. 原子力学会の異常事象解説チーム(チーム 110)の活動（小川順子）
  3. 日本原子力学会誌を通じた活動（佐田）
  4. 学会の情報発信活動に対する評価（コア G）

## 第3章 規制体制（諸葛宗男）

規制体制の経緯、事故前の体制と課題、事故後の新体制と今も残る課題

- ・小論「原子力分野における『安全・安心』と『人材育成』」（桑江良明）

## 第4章 原子力コミュニティ（佐田）

4. 1 原子力コミュニティの構造と文化
4. 2 原子力をめぐる主要なステークホルダー間のコンフリクト
4. 3 小括と提言
  - ・小論「エリート主義と推進体制」（篠田佳彦）

## 第5章 学会、あるいは専門家としての総括、反省

5. 1 原子力学会の役割と責任ー学会幹部へのアンケート結果
5. 2 小括（北村正晴、大場恭子）

## 第6章 提言

「深層防護について」（諸葛）

「原子力安全論理の再確立と説明力強化：レジリエンスベースの安全学」（北村）

## ポジションステートメントについて

2011.2.28  
広報情報委員会

日本原子力学会は社会が関心を持つ原子力の平和利用に関する重要事項について、

1. 学会としての見解等を分かり易く説明し、原子力技術への社会の理解向上に寄与する
2. 学会員が平易に説明するためのツールを提供する
3. 学会のホームページに掲載し、学会の内外に広く公開し、学会活動の透明性を高め、社会に対するオピニオンリーダーとしての責任を果す

ことを目的として「ポジションステートメント」を順次整備することとなり、2010年度分として下記のNo.1～No.8の8件を作成致しましたのでお知らせするとともに、会員の皆様に広くご活用頂くようご案内します。なお、No.9以下は既に公開済みのポジションステートメントです（次ページ参照）

（日本原子力学会ホームページ、<http://www.aesj.or.jp/info/ps/index.html>）

### 社会・環境部会担当分

#### 1. 既作成分

##### (ア) 和文

- ① PS0801 持続可能なエネルギー開発（見解、2008年度）
- ② PS0802 エネルギーにおける外部性と原子力（解説、2008年度）
- ③ PS0903 原子力発電の二酸化炭素削減効果（解説、2009年度）
- ④ 原子力による水素製造（解説、2010年度）

##### (イ) 英文

- ① PS0801E Development of Sustainable Energy（見解、2009年度）
- ② PS0802E Externalities of Energy and Nuclear Power（解説、2009年度）
- ③ PS012 Effect of Nuclear Power Generation on Reduction of Carbon Dioxide Emission（解説、HPにタイトルのみ掲載、本文は未）

#### 2. 検討（作成）中

##### (ア) 和文

- ① 原子力防災計画の考え方

## 参考 原子力学会ポジションステートメント一覧表

(2013年3月4日現在)

P S 番号	種別	題 名	発行	新規改訂	作成担当部会
<a href="#">AESJ-PS017</a>	解説	医療分野における加速器・ビーム利用	2011.2	新規	加速器・ビーム科学部会
<a href="#">AESJ-PS016</a>	解説	イーター (ITER) 計画	2011.2	新規	核融合工学部会
<a href="#">AESJ-PS015</a>	見解	原子力産業の海外展開について	2011.2	新規	原子力発電部会
<a href="#">AESJ-PS014</a>	解説	低レベル放射線の健康影響 (一般向け)	2011.2	新規	保健物理・環境科学部会
<a href="#">AESJ-PS013</a>	解説	自然放射性物質を取り扱う作業者の放射線防護	2011.2	新規	保健物理・環境科学部会
<a href="#">AESJ-PS012</a>	解説	原子力発電の二酸化炭素削減効果	2011.2	新規	<b>社会・環境部会</b>
<a href="#">AESJ-PS011</a>	解説	クリアランス	2011.2	新規	バックエンド部会
<a href="#">AESJ-PS010</a>	解説	燃料のリサイクル	2011.2	新規	再処理・リサイクル部会
<a href="#">AESJ-PS009</a>	解説	量子ビーム利用の可能性について	2009.6	新規	加速器・ビーム科学部会
<a href="#">AESJ-PS008</a>	その他	原子力の事故情報の発信、評価について -学会員としての姿勢	2009.6	新規	原子力発電部会
<a href="#">AESJ-PS007</a>	解説	リスク情報を参考にし、安全実績を基にした 検査	2009.6	新規	原子力安全部会
<a href="#">AESJ-PS006</a>	解説	原子炉の安全性	2009.6	新規	原子力安全部会
<a href="#">AESJ-PS005</a>	解説	燃料サイクルと核不拡散	2009.6	新規	再処理・リサイクル部会
<a href="#">AESJ-PS004</a>	解説	低レベル放射線の健康影響	2009.6	新規	保健物理・環境科学部会
<a href="#">AESJ-PS003</a>	提言	高レベル放射性廃棄物の地層処分	2009.6	新規	バックエンド部会
<a href="#">AESJ-PS002</a>	解説	エネルギーの外部コスト	2009.6	新規	<b>社会環境部会</b>
<a href="#">AESJ-PS001</a>	見解	持続可能なエネルギー開発	2009.6	新規	<b>社会環境部会</b>

平成24年度 日本原子力学会 社会・環境部会 表彰者リスト

①番号	②賞	③所属	④名前	⑤表彰理由
1	業績賞	株式会社テムス 研究所	北村 正晴	原子力安全論理の再構築を 目指す学術的・社会的な取 り組みを精力的に行い、社 会からの信頼回復に向けた 道筋を示した
2	優秀発表賞	—	京都大学 亀田 弘行 東京大学 高田 毅士 原子力安全基盤機構 蛭沢 勝三 日本大学 中村 晋	リスク論に立脚したトータル プロセスの視野から原子力 安全を論ずることの重要性 を提起した優れた分析と提 言
2	優秀発表賞	—	日本原子力研究開発機構 山下 祐司 東京大学 田中 知	高レベル廃棄物処分場問題 に関して米国アカデミーが 果たしてきた役割を詳らか にし、我が国の学術会議の 役割考察に大きく貢献
3	優秀活動賞	日本原子力学会	標準委員会原子力安全検討会 原子力安全分科会	本学会における原子力安全 基本原則策定に向けた活動 を主導し、社会からの信頼 回復に向けた取り組みに大 きく貢献
4	奨励賞	静岡県立静岡 北高等学校	池田 俊乃輔 齊藤 龍一 中村 琢	原子力と地域社会の接点を つなぐ理解と普及活動に大 きく貢献

社会・環境部会 平成24年度 第3回運営小委員会議事録

1. 日 時：平成25年3月4日（火）16時～18時
2. 場 所：日本原子力発電 会議室
3. 出席委員：諸葛部会長、久保副部会長、三島委員、佐田委員、寿楽委員、森崎委員、  
黒岩委員、稲村委員、木村委員、蛭沢委員、加藤  
欠席委員：森田委員、森委員、河合委員、布目委員、小林委員

4. 議題及び議事

1) 平成24年度部会表彰

表彰小委員会の検討結果の基づき、本年度部会表彰として、業績賞（株式会社テムス 北村正晴氏）、優秀発表賞①：リスク論に立脚したトータルプロセスの視野からの原子力安全について（京都大学 亀田弘行氏、東京大学 高田毅士氏、原子力安全基盤機構 蛭沢勝三氏、日本大学 中村晋氏）、優秀発表賞②：高レベル廃棄物処分場問題について（日本原子力研究開発機構 山下祐司氏、東京大学 田中知氏）、優秀活動賞（日本原子力学会 標準委員会原子力安全検討会）、奨励賞（静岡県立静岡北高等学校 池田俊乃輔氏他）を決定した。表彰は、3月27日春の総会（近畿大学）後に行う。表彰楯とメダルは事務局にて例年通り手配を行う。

2) 平成25年度 運営小委員会名簿及び運営体制（別添資料のとおり）

蛭沢委員の後任には、日本原子力研究開発機構の山本隆一氏が就任予定。  
会計担当には、小林委員の補佐として森崎委員が就任。

3) 24年度収支実績および25年度収支予算

当部会では、社会的側面について学問的に研究し、成果についての情報交換や普及を図っていくことを目標としているが、その性格上、有料のセミナーを開催したり、販売会等を開催して、部会の収入を得ることは難しいため、H25年度予算申請において繰越金を使用する理由として別紙資料のとおり申請することとした。

なお、木村委員から、文科省の採用研究とされた原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブは、毎年採用されるとは限らないので、目下の、その研究金額まで切り崩してしまう繰越金の取り崩し申請は見直していただけないか、とのリクエストがあり、委員会で、その方向で繰越金の取り崩し数字を見直すこととなった。

3) 2013年春の大会企画セッション提案書（三島委員）

日時・場所：3月27日（水）14：40～16：10 L会場

セッションタイトル：福島原発事故の社会的側面の分析（佐田 務氏）

なお、録音のテープ起こしは、森崎委員に依頼する。



4) 福島事故に関する社会的要因分析コアグループ（佐田委員）

2011年6月に、福島事故に関する社会的側面について検討を行う福島勉強会を発足させ、同12月に、社会環境部会の「福島事故に関する社会的要因分析コアグループ」（福島コアG）へと改組し、2012年9月に、原子力学会事故調査委員会における社会環境部会の中の委員会へと位置づけを拡大した。

2012年度は4回開催。2013年度も年4回程度開催予定。報告書を作成し、原子力学会事故調査委員会報告書に反映する。本コアは2013年度をもって解散。

5) 平成24年度マスコミとの関係強化WGの年度計画

第6回マスメディアとの交流会は、9月28日（金）、17:50～19:20、テーマは「LHCでHiggsを探す」、日本原子力学会・会議室で開催。

講師は、高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 徳宿克夫教授。

6) データ管理ワーキンググループ、「市民および専門家の意識調査・分析」特別専門委員会

1. データ管理ワーキンググループは、2006年度～2012年度の調査結果をホームページに公開。

2. 「市民および専門家の意識調査・分析」特別専門委員会は、平成24年度原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブに「原子カムラの境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」が採択され、その一部業務のために設置し、実施した。

①社会調査の設計・・・終了

②一般市民および専門家への社会調査・分析・・・終了

③調査結果の公開・・・終了

7) 「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップ（木村委員）

第12回「エネルギー問題に関する国民的議論」を10月13日（土）武田先端知ホールで開催。60名程度の参加。

第13回「レジエントな組織はQMSで作れるか」を3月16日（土）武田先端知ホールで開催予定。70名程度の参加登録あり。

8) ポジションステートメント（蛭沢委員）

原子力学会がポジションステートメントとしてホームページに公表している和文17件中、社会環境部会は持続可能なエネルギー開発他トータル3件を作成。そのうち2件は英文を作成。現在、原子力防災計画の考え方について検討中であるが、秋以降進展しておらず、規制委員会の防災計画を踏まえ、安全部会との連携が必要である。

以上